

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902546		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム 春光		
所在地	北海道旭川市春光5条6丁目 (電話) 0166-59-0802		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 2月 21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	18,800~23,800 円	
敷金	(有) 32,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	70 円
	または1日当たり		1,270 円	

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82.6歳	最低	69歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)フクダ 旭川メディハイルペインクリニック・いまみや歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人を中核として、同一建物内にはデイサービス、高齢者マンションがあるグループホームです。また、近隣には、大きな公園や閑静な住宅街、商店があり立地条件に恵まれた環境で、町内会に加入して、夏祭りやグリーンコンサートに参加したり、子供達との花火大会参加も町内で話し合われるなど地域との交流も積極的に行われています。職員の内部研修では、同一法人のグループホーム3施設がそれぞれ自分たちで「心肺蘇生」などのテーマを決めて研修し、発表会を行ったり、母体法人の看護・介護の研修に積極的に参加して職員のスキルアップに取り組むとともに火災避難訓練も夜間を想定して年5回実施するなど緊急時の対応も行われています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、火災などの緊急時の対応について定期的な訓練の実施が挙げられていましたが、通常の火災避難訓練が2回と夜間を想定した避難訓練が3回実施され、緊急時に全ての職員が速やかに対応できるように取り組まれています。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 全ての職員が参加して、毎日3項目づつ話し合わせ自己評価が行われ改善の機会として利用されています。また、改善点を見出すと共に優れている点も見出されて職員の新たな気付きと研修への意欲に繋がっています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在5回実施されています。主な議題については 開設2周年の記念行事について 中国食品の使用について 町内会との連携について 灯油代の高騰について 遠方のご家族の運営推進会議の参加について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月「春光の愉快的仲間たち」を発行して、日常の生活の様子や行事参加など家族に報告され来訪時には、意見や要望などが意見交換されています。また、運営推進会議では、ホームの活動の報告や運営などについての話し合いが行われています。入り口に意見箱を設置して意見や苦情を表せる機会を設けています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して、夏祭りやグリーンコンサートなどの地域の行事に参加したり、子供達との花火大会参加も町内で話し合われるなど地域との交流が行われています。また、町内会長が協力的でホームの取組みなどを回覧するなど日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念、ケア理念については、職員で話し合いグループホーム独自の理念をつくりあげ、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践のために、毎朝の引継ぎで理念を唱和して日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、夏祭りやグリーンコンサートなどの地域の行事に参加したり、子供達との花火大会参加も町内で話し合われるなど地域との交流が行われています。また、町内会長が協力的でホームの取り組みなどを回覧するなど日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が参加して、毎日3項目づつ話し合わせ自己評価が行われ改善の機会として利用されています。また、改善点を見出すと共に優れている点も見出されて職員の新たな気付きと研修への意欲に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在5回開催されている。メンバーは利用者、家族、町内会役員、他施設の介護支援専門員、管理者及び職員で構成され「中国食品の使用について」など具体的に活動に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、さらに行政や包括支援センターの協力を得ながら救急救命やAEDの使用など日ごろより地域の人々の協力を得られるよう運営推進会議で働きかけを行う計画がされている。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所及び管理者は、市担当者や包括支援センターとの連携の重要性については十分理解している。</p>		<p>今後は、感染症対策など市や包括支援センターの協力のもと、より具体的にサービスの質の向上に取り組む計画が検討されている。</p>
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「春光の愉快的仲間たち」を発行して、日常生活の様子や行事参加など家族に報告され来訪時には、意見や要望などが意見交換されています。また、金銭管理についても毎月報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時には、話し合いの機会を設けて意見や要望など言いやすい環境づくりをしている。また、入り口に意見箱を設置して意見や苦情を表せる機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>共用空間には、顔写真付きで掲示板に職員の紹介がされています。また、職員の定着率は安定していて、離職の際などには利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の内部研修では、同一法人のグループホーム3施設がそれぞれ自分たちで「心肺蘇生」などのテーマを決めて研修し、発表会を行ったり、母体法人の看護・介護の研修に積極的に参加して職員のスキルアップに取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会・研究会で他施設との意見交換や同一法人の施設と定期的に研修会や意見交換が行われ、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>今後は、更に職員の他施設との相互訪問などの交流を通じて情報交換や新たな気づきに利用できる取り組みが検討されている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、できるかぎり入居前には、本人、家族が見学するなど職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>センター方式を利用して、思いや意向を把握する取り組みや利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握するなど本人と共に支えあう関係構築に努力している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>モニタリングを定期的実施して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。また、入浴や食の嗜好の把握、外出や趣味への支援など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、センター方式を採用して、介護計画は作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、散歩や買物、ドライブや外食など柔軟な支援をしている。また、要望があれば職員が髪のカットをするなどして支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員に気軽に相談でき、母体医療法人や主治医との連携で医師が確保されている。また、定期的な往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針が明確化され本人・家族の意志が確認され、職員間で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや記録の扱いをしている。また、不穏な利用者にも優しく接している職員が共通認識を持つ取り組みを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思いを把握して、散歩やコンビニエンスストアでの買物、ファーストフードやファミリーレストランでの外食、絵や花の世話などの趣味への支援など本人の希望に沿った生活が送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、味付けや盛り付け、配膳の準備、食器ふき等職員と利用者が一緒になって行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴日を決めずに週3回を目安に入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、歌唱やぬりえ、読書、配膳の準備や外食やドライブなど気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物で金銭を使う場面を見出したり、散歩、花見や紅葉見物、自衛隊記念館見学、紅葉狩りやドライブ、弁当持参で公園散歩など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	内玄関には、鈴の音などで外出が察知できるように取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が配置されて、通常の火災避難訓練が2回と夜間を想定した避難訓練が3回実施され、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるよう取り組まれている。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように、地域の人達も参加した火災避難訓練や救急救命訓練などの働きかけを行う計画がされています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によるメニューが作成され、具体的な食事や水分の摂取量、栄養バランスなど個々に応じた対応がされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>周辺地域は、レンガ作りの家屋が多く当該施設も周囲と調和が取れるように配慮された構造となっており、建物内の広い共用空間では採光が採り入れられ明るく清潔感が漂っている。また、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。広い窓やベランダからは、公園などの近隣の風景や木々の新緑や紅葉が眺められ季節感が味わえたり、畑や花壇が見られ開放感がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、夫婦で入居している利用者も居て広い作りとなっている。また、人形や習字の作品が飾られたり、使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。